

1-8

利用者と共につくる行事への取り組み

地域・ボランティア参加型の行事を目指して

利用者主体

ボランティア参加

老人ディサービスセンター こもね^{さいにく}在宅サービスセンター

相談員 山口 公世

相談員 名木田 砂知

東京都板橋区小茂根4-11-11

TEL 03-3959-7436

E-mail komone@spn6.speednet.ne.jp

FAX 03-3959-7438

URL http://www.komonenosato.com/

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

平成9年特別養護老人ホーム開設後、ショートステイ、デイサービス、在宅支援センター、訪問介護、訪問看護、包括センターがある高齢者福祉施設として地域に根付いたサービスに努めています。最寄の駅より徒歩5分、環状7号線沿いにある交通の便に恵まれた施設です。

〈取り組んだ課題〉

- 準備段階から利用者が関わり作りあげる行事の企画
- 「みんなで作り上げる」という職員間の認識の統一
- 以下具体的な取り組みの実施

〈具体的な取り組み〉

- 「こもねまつり」と称し、担当職員を中心に、利用者がどう参加していけるかを検討、企画
 - ・ 出し物を見て楽しむプログラムと模擬店・バザーなど参加して楽しむプログラムの企画
 - ・ どの曜日に通所していても参加できるように週間「こもねまつり」をおこなう
 - ・ 「みんなで作り上げる」という認識を全職員がもてるよう職員の出し物も企画する
- ボランティアへの呼びかけ
 - ・ 施設ボランティアへの協力を募り、準備から携わってもらう
 - ・ 見て楽しめる出し物をおこなってもらえるボランティアグループとの連携、調整
- 広報活動
 - ・ 利用者、家族への告知・ちらしを配布
 - ・ ケアマネジャー事業所へポスターを配布
 - ・ 町会掲示板・回覧板による地域住民への広報
- 模擬店・バザーの収益の検討
 - ・ 収益を利用者に還元できる方法を検討
- 終了後評価、検討し、次回の「こもねまつり」に活かす
 - ・ デイサービスの便りにてまつりの内容、様子をお知らせ
 - ・ 利用者からの声、家族からの声を聞き、反省点を次回の「こもねまつり」の方向性につなげる

〈活動の成果と評価〉

- 当デイサービスは大規模であり通常3グループにわかれて活動している。いつものグループで活動するだけでなく、バザーで売る品物を作ったり、売り子をしたりと、利用者個々の特性を活かした形で一つの行事に参加していただけた

- 準備段階から関わっていくことにより、利用者自身が「いま必要なこと」「これから必要になるであろうこと」など検討し行動に移していく過程が見受けられた

・ 竹細工を作成していた利用者が必要な工具などを自ら準備し通所された

- ボランティアの協力を得ることにより、より利用者に関われる時間を過ごし、ボランティア自身が利用者と一緒に行事をすすめているという充実感・充足感が得られた

・ いつも決まった時間で決まった事柄のボランティアをするだけでなく、行事に参加してもらうことで、新しいボランティアの形を体験できたとの感想をいただいた

- 施設内バザー会場に来てもらったことが地域住民の方にとって施設を知り、理解してもらえる機会となった

・ 高齢者施設がどのような様子なのか、どのような方が通所しているのか初めて知ったと話しかけてくださった方がいた

- 収益を利用者に還元し、利用者自身に自らが努力した成果を感じ取ってもらえた

・ 毎日使用するラジカセを購入した

- お便りにてまつりを知らせることによって家族にも活動内容を理解していただき、利用者との話題提供になった

・ 利用者が家族にまつりの感想を伝え、家族からまつりの改善点について意見をもらった

〈今後の課題〉

- 当デイサービスが大規模であるため、「こもねまつり」への利用者個々の期待が叶えられているのかを検討

・ 同じ形式にとらわれず、新しい「こもねまつり」を企画し取り組んでいく

- 定期的な開催のために、日頃からボランティアとの関係作りを行い、協力が得られる体制を整えていく